

# 「生命の尊さ」を核とした道德教育のカリキュラム・マネジメント ー 道德科総合単元的ユニット学習から生徒の自己実現の支援を通して ー

吉野 泰嗣  
学校運営コース

## 1. テーマ設定の理由

近年、生徒を取り巻く社会環境や生活様式が変化し、自然や人間との関わりの希薄さから、いじめや暴力行為、自殺・自傷行為など生命を軽視する行動につながり、社会問題になることがある。人間としての生き方についての関心も高まるこの時期の生徒に、生命の尊さを深く考えさせ、生きていることの有り難さや、自己以外のあらゆるかけがえのない生命を尊重する心を育成する取組が求められている。そして、これらの心を育成するためには道德教育が大きく影響しており、各教科等横断的な視点で計画し、実践することや学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントの確立が求められている。

現任校である結城市立結城南中学校は、校長の経営理念である「自他の尊重」「貢献」「感謝」の下、全職員で道德科の授業及び指導に取り組んでいる。しかし、昨年度の教職員へのヒアリングやアンケートより各教科等と関連付けた道德教育の取組の意識が薄いことや、生徒の規範意識の向上が課題であることが明らかとなり、本研究テーマを設定した。

## 2. 研究の視点

本研究を進める上で、次の二点を明らかにしていく。

- (1) 「生命の尊さ」を核とした道德教育を推進する教科等横断的な取組を活性化させるマネジメントの在り方について明らかにする。
- (2) 「生命の尊さ」を核とした道德教育のカリキュラム・マネジメントについて、組織的、計画的に体制を構築することを通して、教職員の意識改革と授業力向上及び生徒の変容について明らかにする。

## 3. 研究の内容

- (1) 基本的な考え方

### ① 生命の尊さとは

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示 特別の教科 道德編）』から本研究において、生命の尊さとは「道德科はもとより教育活動全体の基盤とした価値項目であり、自分や他人を大切にしようとする心」と捉える。

### ② 自己実現とは

中央教育審議会『次代を担う自立した青少年の育成に向けて（答申）』や押谷由夫『総合単元的道德学習の提唱ー構想と展開ー』から本研究において、「自分の目的や理想の実現に向けて、人間としてよりよく生きようと自己実現をする過程において、他者を受け入れながら自分の能力や可能性を發揮していくこと」と捉える。

### ③ カリキュラム・マネジメントとは

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』から本研究では、道徳科の教育活動を基盤とし、道徳科の内容項目である「生命の尊さ」を核とした道徳教育を各教科等横断的に展開したいと考える。そして、学校全体で取り組み、道徳教育推進のための組織を構築（または整備）し、評価、改善を図り、学校の活性化及び、生徒の資質・能力の向上を図りたい。

#### ④ 総合単元的ユニット学習とは

押谷由夫『総合単元的道徳学習の実践』、田沼茂紀『指導と評価の一体化を実現する道徳科カリキュラム・マネジメント』から本研究では、これら総合単元的な学習の展開とユニット学習を組み合わせ実践していく。道徳科と各教科等、学校行事を結び付け、道徳科を核とした多時間扱いのユニット学習を意図的に設定し、3年間を通したテーマ「生命の尊さ」に基づく重点的な授業展開を実践していくこととした。

#### ⑤ 「生命の尊さ」を核とした道徳教育

道徳性とは、「道徳的実践、行為につながる資質・能力であるとともに自己実現の基盤となるもの」と捉えており、本研究では道徳性の中でも「生命の尊さ」に視点をあてて、自己実現に向けたスパイラル的な教育活動を展開したいと考えている。また、自己実現を図る過程において、日常生活を道徳的実践の機会と捉え、さらに総合単元的ユニット学習を計画し、道徳的実践力の向上を図りたいと考える。

#### ⑥ 3年間を通した重点的な教育活動

道徳的実践力を身に付けるためには長期的な視点で系統立てた計画が必要であり、3年間で教育計画を立てていくことが重要であるとした。各学年の道徳教育の学年目標を基に第1学年では、年間のテーマを「感謝」、2学年では「助け合い」、3学年では、「共生」として、各学年のねらいに沿った取組が生徒の内的資質を向上させ、道徳的実践につながると考えた。

#### ⑦ 道徳科と学校行事をつなぐ

本研究では、学校行事を生徒が各教科等で学んだことを実践する場として位置づけ、そして、テーマに沿った総合単元的ユニット学習を計画した。

### 4. 研究の実際

#### (1) 道徳教育の必要性の共有（4月）

今年度、転入してきた教職員がいることから前年度に行ったヒアリングやアンケートの結果を含め、グランドデザインの周知を図る校内研修を実施した。学校教育目標を達成するための道徳教育の必要性、本校の強みである道徳教育、生徒の課題が自尊感情の低下による自主性の希薄さであることを共有し、道徳教育の必要性を意識付けることをねらいとした。

#### (2) 道徳教育全体計画の見直し（4月～5月）

全職員による学年の重点目標の共通理解と各教科等横断的な視点で道徳教育の全体計画の見直しをした。手順は原案作成後に道徳部で検討し、その後、教科主任を中心に教科部会に検討、修正を依頼し、見直しに全教職員が関わるようにした。その結果、道徳教育の全体像と道徳科と各教科等の関係性を全職員に意識付けを図ることができた。

#### (3) 学びと生活をつなげる場の設置（6月）

道徳部の発案によって、生徒が学んだことをいつでも振り返ることができる道徳コーナーを設置した。この「見える化」によって生徒が振り返りを行い、自己の高まりを感じられるようにした。

#### (4) 旅行・集団宿泊的行事（5月）に向けたカリキュラム・マネジメント（4月～6月）

##### ① 各学年の旅行・集団宿泊的行事に向けたテーマ設定と総合単元的ユニット学習づくり

各学年の旅行・集団宿泊的行事のテーマを基に生徒の成長を促す視点で意図的に計画した。各学年のテーマは、1学年は「出会った仲間と友情を深める」、2学年は「信頼し友情を深め生きる喜びを感じよう」、3学年は「友情を深め、協力する」とし、これらのテーマに基づいて道德部を中心として各学年で検討し、総合単元的ユニット学習を組み立てることとした。

##### ② 旅行・集団宿泊的行事後のアンケート結果の共有

教職員に対して、ヒアリングを行ったところ、成果として「授業につながりをもたせて実施できた。」「テーマが決まっており授業がやりやすかった。」「学年スローガンが形骸化せずに振り返りまで意識することができた。」「授業をしながら宿泊学習では～というような指導ができ、学習と行事のつながりを実感した。」また、課題としては「下位児への意識付け」、「各教科等横断的な取組の必要性」など、総合単元的ユニット学習への前向きな意見を聞くことができ、今後の校内研究の内容を焦点化していくことにつながった。

#### (5) 全校道德に向けたカリキュラム・マネジメント（7月～9月）

##### ① 全校道德（9月30日）に向けた校内研修（7月）

研修内容は教員、生徒対象の旅行・集団宿泊的行事の事後アンケートの結果報告であり、ねらいとして各教科等と学校行事をつなげるカリキュラム・マネジメント（総合単元的ユニット学習）の理解とした。アンケート結果から教員、生徒と共に総合単元的ユニット学習による成果が見られたため、全校道德の「生命の尊さ」の取組に意欲をもたせるようにした。

##### ② 全校道德に向けた協議（8月）

前回の校内研修で出された「各教科等をつなげる」という課題を踏まえ、8月に教科主任、学年主任と協議を行った。協議の目的はどのような学習の視点で「生命の尊さ」に迫るか、とした。

##### ③ 「生命の尊さ」を核としたカリキュラム構想図

「各教科等をつなげる」ことの理解啓発のため、学校行事と各教科等のつながりを可視化した構想図を作成した。構想図は生徒が道德科を核とし各教科等横断的に学んだことが、実践の場である学校行事で表出される生徒の姿を表したものである。全校道德に向けて、各教科等横断的に取り組むことを立案し、実践することとした。

##### ④ 各教科等の「生命の尊さ」へのアプローチの視点

各教科における「生命の尊さ」に迫るアプローチの視点の作成にあたり、道德部において学年を超えた縦のつながりと各教科等横断的な視点を意識して作成した。

##### ⑤ 全校道德に向けた総合単元的ユニット学習づくり

全職員に周知する前に研究主任、道德教育推進教師、学年主任、養護教諭と教育活動を高めるための計画を協議した。まず、研究主任、道德教育推進教師と全校道德のテーマについて協議をした。学年主任とは総合的な学習の時間を活用した体験学習について協議を行った。筆者が担当する第2学年では「妊婦体験」を実施することにした。加えて、養護教諭発案の現役医師を招聘した「生（きる）教育講演会」を設定した。これらの計画を立て、夏季休業明けは登校渋りや自傷行為が危惧されることから9月を「生命尊重」強化月間とした。さらに、旅行・集団宿泊的行事の際に活用した総合単元的ユニット学習を改善し、全校道德までの学習を道德科を基盤として各教科等、学級活動

をつなげ、各学年の道徳部が中心となり、「生命の尊さ」に迫るための学習づくりを行った。

#### ⑥ 全校道徳に向けた総合単元的ユニット学習の実施（9月）

夏季休業明けの9月5日の道徳科において、全学年でSOSの出し方の教育を行い、自分の悩みを相談する手段や関係機関の紹介をした。9月12日に実施した「生（きる）教育講演会」では、産まれてきたことが奇跡であること、自分を大切にすること、自分は愛されるために産まれてきたことなどの内容の講話を聞いた。9月15日には、総合的な学習の時間に妊婦に対する優しさや思いやりの必要性に気付かせることをねらいとした「妊婦体験」を行った。事前に「生（きる）教育講演会」を行ったことで、生徒は「電車で妊婦さんを見かけたら席を譲りたい。」や「進んで荷物を持って手伝いたい。」と考え、実践意欲が高まった。9月19日、26日には「生命の尊さ」につながる道徳科の学習を実践し、全校道徳を迎えた。

#### ⑦ 全校道徳の実施（9月30日）

本校の特色である全校道徳は、文化祭で実施している。道徳教育推進教師が全体の進行役となり、教員は学年の枠を超えた生徒の話し合いの中にファシリテーターとして参加した。議論の中で出た生徒の意見を全体の前で発表したり、出産、育児経験がある教員の話の聞いたりして、「生命の尊さ」の理解を深めた。

### 5. 研究の成果と課題

#### (1) 成果

各学年において、総合単元的ユニット学習をどのように組み立てるかという協議が道徳部を中心に行われるようになった。また、それが授業改善へとつながり、教職員の授業づくりの一助として生かされていると考える。また、道徳科と学校行事をつなげる意識に関して、各教科等横断的な取組を通して、「つなげる」という教職員の意識が非常に高まる結果となった。生徒の変容では、これまでは他教科とのつながりが希薄だったものの、「道徳科で学んだ～が」というような、道徳科で学んだことが学校行事で実践するつながりを理解している様子が見られた。

#### (2) 課題

学校全体で総合単元的ユニット学習を計画的、継続的に実施することが課題である。各教科等の年間指導計画に学校行事とつなげた総合単元的ユニット学習を位置づけることで、次年度へと引き継がれ、職員が変わっても形骸化されずにブラッシュアップされ则认为。生徒においては、自尊感情の高まりが実感できる取組が必要であることが明らかになったことから、学校行事以外の体験活動が必要だと考える。今後に向けて、教職員の高まった各教科等横断的な取り組みや学校行事と「つなげる意識」を形骸化させないように、計画的かつ継続的に展開し、本校の強みである道徳教育を核として、学校全体を活性化していきたい。

### 6. 参考文献・引用文献

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』

中央教育審議会「次代を担う自立した青少年の育成に向けて（答申）」

押谷由夫『総合単元的道徳学習の提唱—構想と展開—』文溪堂1995年

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』

押谷由夫『総合単元的道徳学習の実践』明治図書出版1995年

田沼茂紀『指導と評価の一体化を実現する道徳科カリキュラム・マネジメント』学事出版2017年